

令和4年度 第 4 回

希望郷いわてモニターアンケート

<p>課題名</p>	<p>参議院議員通常選挙の啓発事業 に関する意識調査結果</p>
------------	--------------------------------------

岩手県選挙管理委員会事務局

# 参議院議員通常選挙の啓発事業に関する意識調査について

岩手県選挙管理委員会

## I アンケート調査の概要

### 1 調査の趣旨

近年、国政選挙等における投票率は、全国的に低下傾向にあり、岩手県においても投票率は低下傾向にあります。このため、岩手県選挙管理委員会では、国政選挙等の都度、有権者に向けて、選挙期日等の周知をはじめとする投票率向上に向けた啓発活動に取り組んでいるところです。令和4年7月10日に執行された第26回参議院議員通常選挙（以下、「第26回参院選」といいます。）においても、有権者の積極的な投票参加を促進するため、「届け！マイボイス！！」をキャッチフレーズとして、ポスター、チラシ、テレビCMやSNS広告等を作成して啓発活動に取り組みました。

本調査は、第26回参院選において実施した啓発事業の実施効果を把握し、より効果的な事業の実施に役立てるために、希望郷いわてモニターの皆様の御意見をお伺いしたものです。

---

### 2 調査期間

令和4年7月27日から同年8月10日

### 3 調査方法

調査票郵送及びインターネット

### 4 調査対象

令和4年度希望郷いわてモニター

### 5 回答者数

168名（回答率84%）

### 6 回答者属性

#### (1) 年齢別回答者数（人）

①20歳～24歳	25歳～29歳	③30歳～39歳	④40歳～49歳	⑤50歳～59歳	⑥60歳～69歳	⑦70歳以上
6	6	24	19	30	41	42

#### (2) 性別（人）

①男性	②女性	無回答等
71	94	3

#### (3) 職業別回答者数（人）

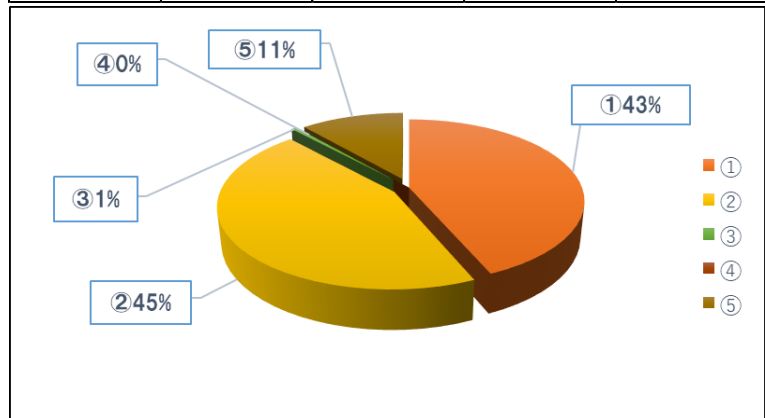
①会社経営・役員	②会社員	③団体職員	④自営業・自由業	⑤農林水産業	⑥パート・アルバイト	⑦主婦（夫）
4	37	11	16	11	26	25
⑧学生	⑨無職	⑩その他				
2	32	4				

## Ⅱ アンケート調査結果

問1 あなたは、「第26回参院選」で投票に行きましたか。

- ①投票日（7月10日）に投票した
- ②期日前投票をした
- ③不在者投票をした
- ④特例郵便等投票をした
- ⑤投票に行かなかった

①	②	③	④	⑤
73	75	1	0	19

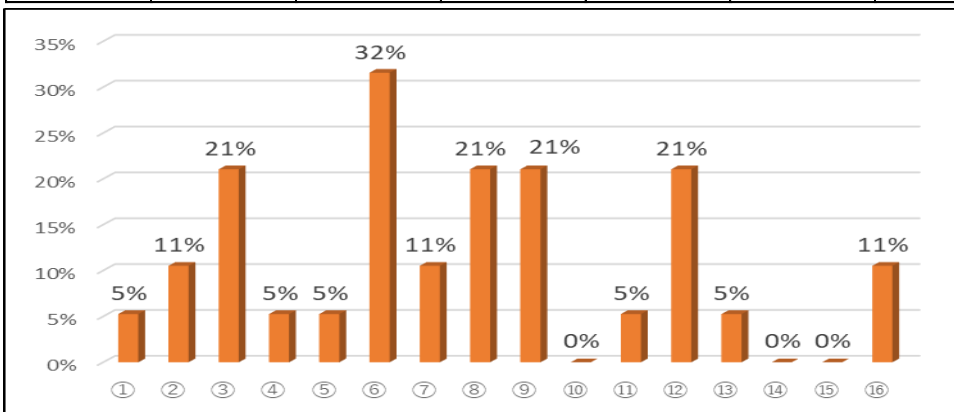


問2 問1で「⑤投票に行かなかった」と回答した方にお伺いします。

投票しなかった理由のうち当てはまるものを全てお選びください。

- ①仕事があったから
- ②重要な用事（仕事を除く）があったから
- ③体調がすぐれなかったから
- ④投票所が遠かったから
- ⑤今住んでいる所に選挙権がないから
- ⑥選挙にあまり関心がなかったから
- ⑦政党の政策や候補者の人物像など、違いがよく分からなかったから
- ⑧適当な候補者も政党もなかったから
- ⑨支持する政党の候補者がいなかったから
- ⑩私一人が投票しなくても同じだから
- ⑪自分のように政治のことが分からない者は投票しない方がいいと思ったから
- ⑫選挙によって政治はよくなると思ったから
- ⑬マスコミの事前予測を見て、投票に行く気がなくなったから
- ⑭天候が悪かったから
- ⑮わからない
- ⑯その他（ ）

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	2	4	1	1	6	2	4
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
4	0	1	4	1	0	0	2



※回答対象者19人が各項目を選択した割合

<⑩その他の回答内容>

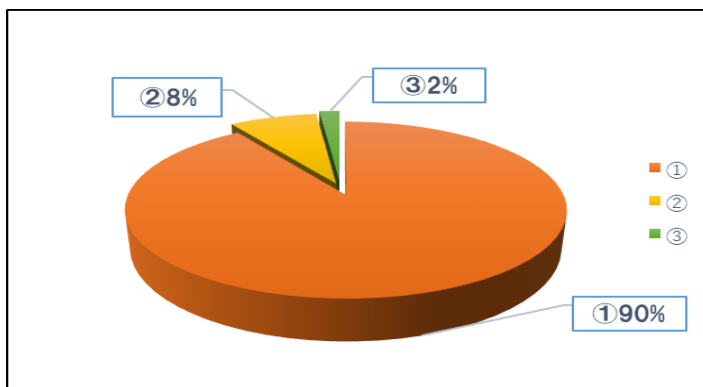
- 過去にセクハラを受けたことがある者が選挙の立会人をしていたため。
- 期日前投票に行った。

問3 あなたは、以下に記載した過去の国政選挙について、投票に行きましたか。

(1) H28. 7.10 参院選

①投票に行った ②投票に行かなかった ③選挙権がなかった

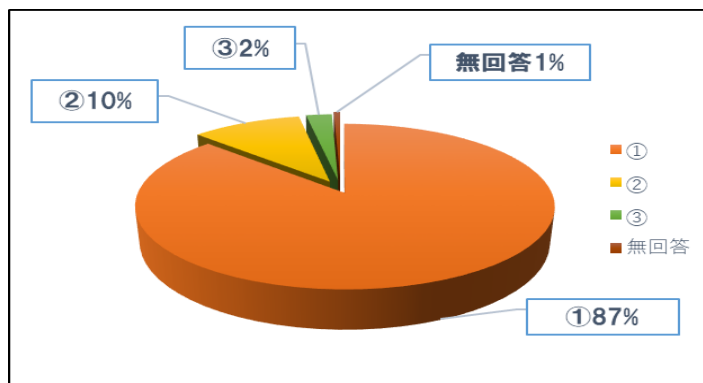
①	②	③
152	13	3



(2) H29. 10.22 衆院選

①投票に行った ②投票に行かなかった ③選挙権がなかった

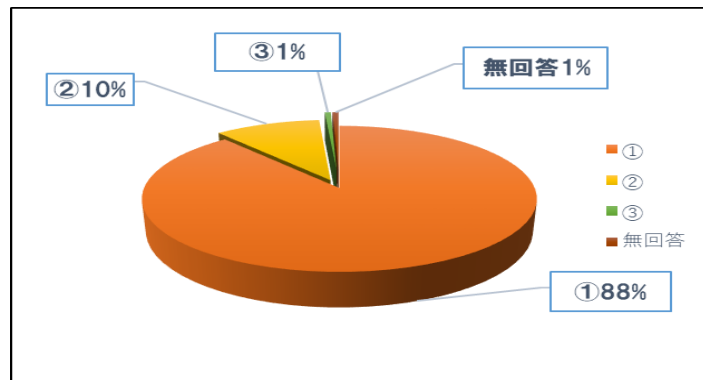
①	②	③	無回答
146	17	4	1



(3) R 1. 7.21 参院選

①投票に行った ②投票に行かなかった ③選挙権がなかった

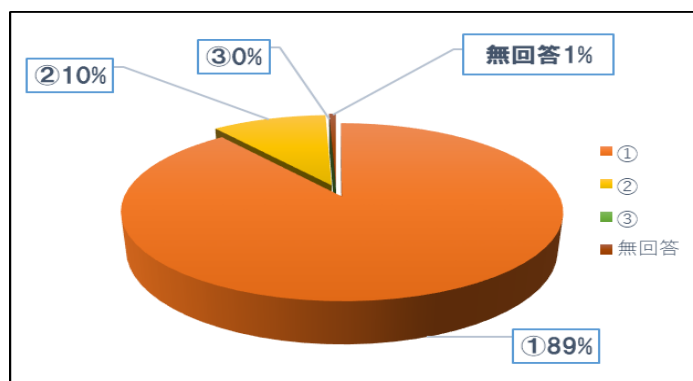
①	②	③	無回答
149	17	1	1



(4) R 3.10.31 衆院選

①投票に行った ②投票に行かなかった ③選挙権がなかった

①	②	③	無回答
150	17	0	1

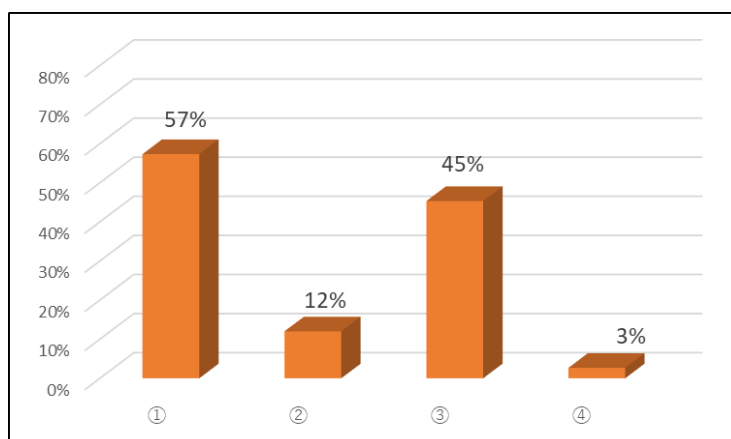


問4 問1で「期日前投票をした」と回答した方にお伺いします。

期日前投票をした理由のうち、当てはまるものを全てお選びください。

- ①投票日（7月10日）当日、仕事や用事等があったから
- ②新型コロナウイルス感染症の予防のため（三密の回避等）
- ③指定の投票所よりも期日前投票所の方が利用しやすかったため
- ④その他（ ）

①	②	③	④
43	9	34	2



※回答対象者 75 人が各項目を選択した割合

<④その他の回答内容>

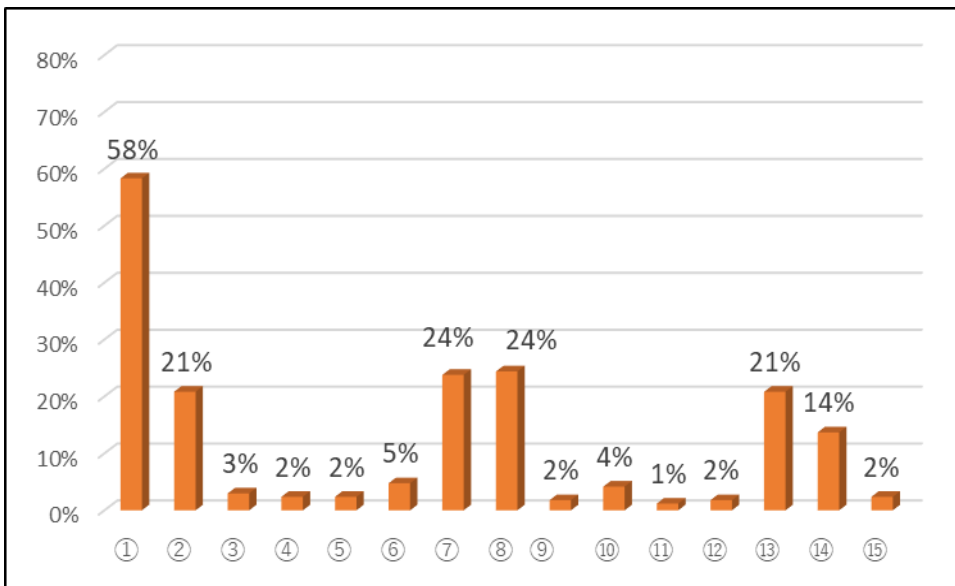
- 投票日（7月10日）当日投票した。
- 早く投票したいから。

問5 岩手県選挙管理委員会等が、第26回参院選に際して実施した啓発活動についてお伺いします。  
あなた自身が、直接、見たり、聞いたりしたものを、以下の中から全てお選びください。

【参考】「届け！マイボイス！！」をキャッチフレーズとして、別添デザインにより以下の各種啓発媒体を作成しました。

- ①テレビCM ②ラジオCM ③Facebook 広告 ④Instagram 広告 ⑤YouTube 広告  
⑥県公式 YouTube の動画配信 ⑦駅構内、商業・公共施設等の啓発ポスター ⑧啓発チラシ  
⑨電車の中吊り広告 ⑩路線バスの前面垂幕 ⑪県選管 Twitter ⑫県選管 Facebook  
⑬見ていない ⑭わからない、忘れた ⑮その他（ ）

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
98	35	5	4	4	8	40	41
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
3	7	2	3	35	23	4	



※回答対象者 168 人が各項目を選択した割合

<⑮その他の回答内容>

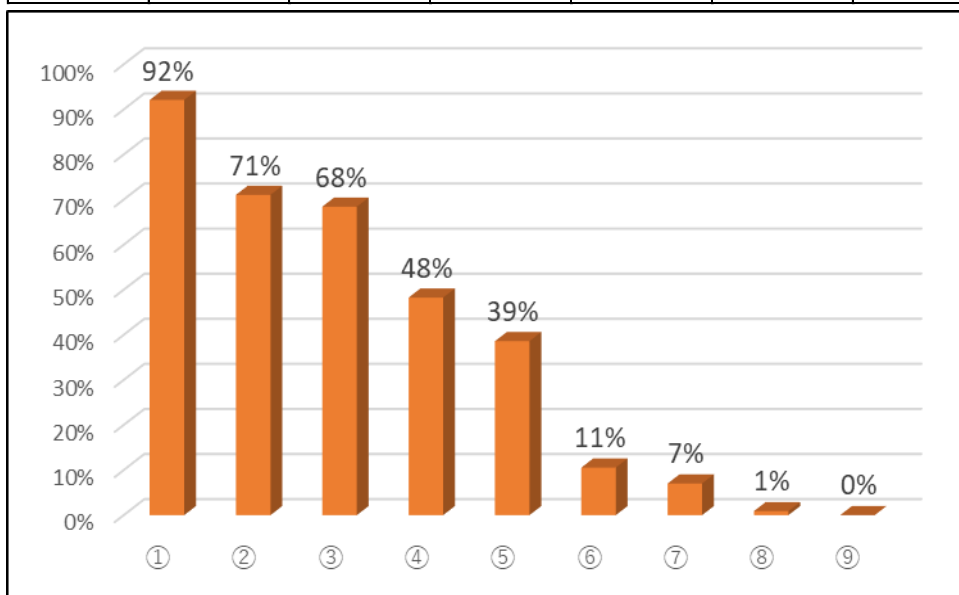
- 選挙広報、市の広報、新聞広告、啓発活動を報じるニュース。
- 市行政無線による告知。
- 啓発活動であまり記憶に残っていない。
- 早く投票したかった。

問6 問5で、第26回参院選に関する岩手県選挙管理委員会等の啓発活動について、1つ以上、直接、見たり、聞いたりしたものがあ、とお答えいただいた方にお伺いします。

問6-1 第26回参院選に関する岩手県選挙管理委員会等の啓発活動を通じて知ることができた情報として、当てはまるものを以下の中から全てお選びください。

- ①投票日が7月10日であること
- ②今回の選挙が参議院議員通常選挙であること
- ③期日前投票が可能であること
- ④期日前投票期間が6月23日から7月9日であること
- ⑤投票所では感染症対策を行っていること
- ⑥岩手県選挙管理委員会のホームページ「第26回参議院議員通常選挙について」があること
- ⑦岩手県選挙管理委員会のSNSアカウントがあること (Twitter、Facebook)
- ⑧当てはまるものはない
- ⑨その他 ( )

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
105	81	78	55	44	12	8	1	0



※回答者対象者 114 人が各項目を選択した割合

<⑨その他の回答内容>

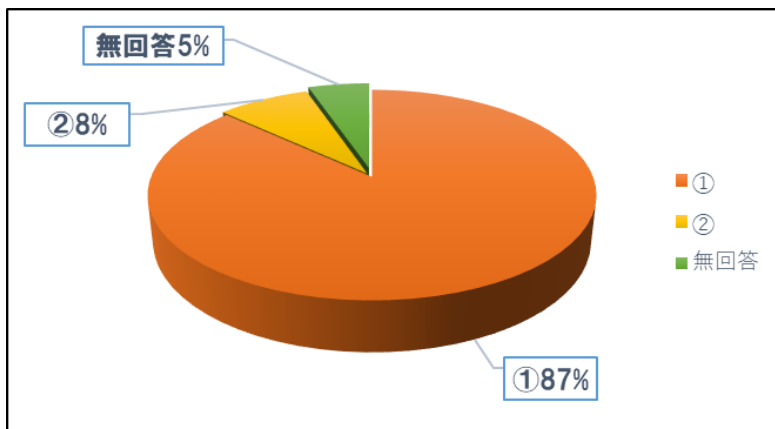
●①・③・④・⑤は今回の行動がなくても、当たり前の事。

問6-2 今回の岩手県選挙管理委員会の啓発活動からは得ることができなかった情報で、第26回参院選に  
 関して啓発が必要だと思うものはありましたか。

ある場合、それはどのような情報ですか。

① ない ② ある…必要な情報の内容 ( )

①	②	無回答
99	9	6



※回答対象者 114 人を総数とする

<②ある…必要な情報の回答内容>

- 候補者のこと（人柄、公約など）がもっと分かるような発信をしてほしい。情報が少なく選びにくい。
- 高校の昼休みなどに投票できる投票車の予定（県内の市町村で実施したと以前の選挙で報道されていたが）
- 投票を促す啓発の前に、なぜ投票が必要なのかを浸透させることが大事。
- 選挙全般の情報。
- 若年層の選挙に対する意識低下の改善。
- 投票しない人の人数や割合。
- 今回の選挙が参議院議員通常選挙であること。
- 各党の成り立ち、県外からのUターン者にとって知らない事、県民すべてが知っていると思うのは傲慢だ。
- ネット等で投票した場合に、特典のクーポンがもらえるような情報があるようだが、さらにPRしてほしい。
- 期日前投票がめんどろでなく、入場券さえあればすぐ簡単に投票できること（入場券がなくても投票可能ならばその旨も。外出時に急に投票したくなった時など）。
- 投票の具体的なやり方。
- 投票時間の終了がいつもより早い。
- 目の病気の為、物が見えにくくなっている親族が代理投票できるという事を知らないでいた。全盲でなければ代理投票できないと思っていたので、心配事があれば問い合わせるよという事を伝えてほしい。

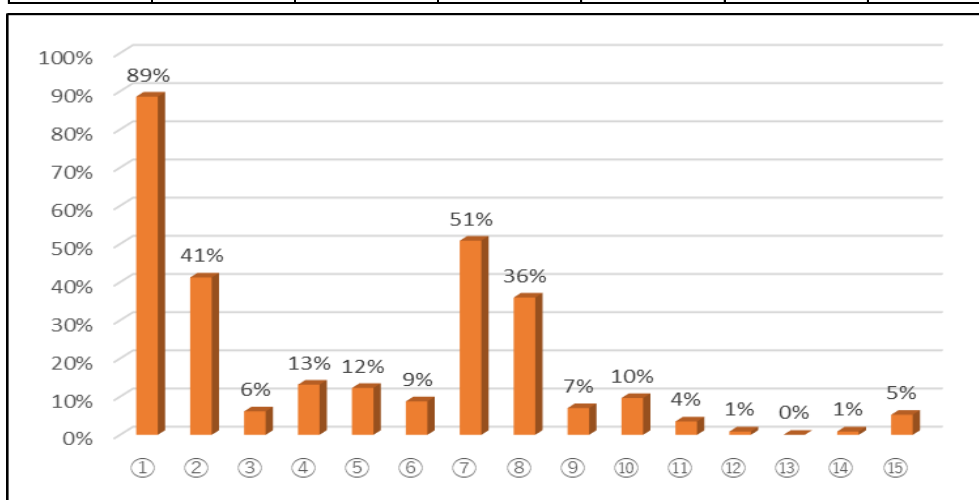


問6-3 第26回参院選に関する岩手県選挙管理委員会等の啓発のうち、県民の皆さんへの啓発の手段として効果的だと思うものを3つまでお選びください。

(あなたが直接、見たり、聞いたりしたものでなくても構いません。)

- ①テレビCM ②ラジオCM ③Facebook 広告 ④Instagram 広告 ⑤YouTube 広告  
 ⑥県公式 YouTube の動画配信 ⑦駅構内、商業・公共施設等の啓発ポスター ⑧啓発チラシ  
 ⑨電車の中吊り広告 ⑩路線バスの前面垂幕 ⑪県選管 Twitter ⑫県選管 Facebook  
 ⑬見ていない ⑭わからない、忘れた ⑮その他 ( )

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
101	47	7	15	14	10	58	41
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
8	11	4	1	0	1	6	



※回答者対象者 114 人が各項目を選択した割合

<⑮その他の回答内容>

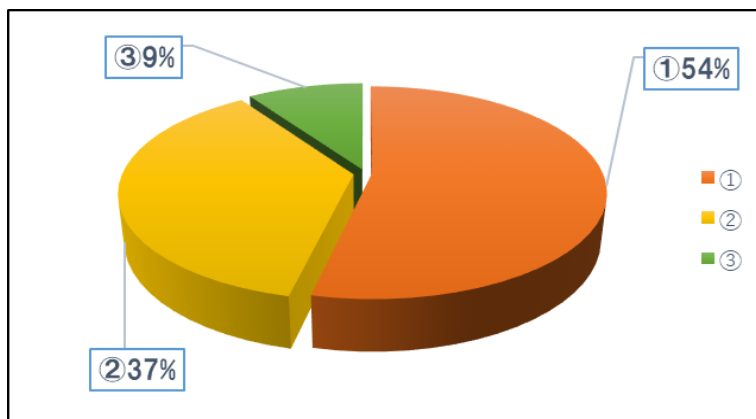
- 周辺市町村のような選挙権を在学中に得ることのできる高校生の啓発活動も必要だと思います。
- 防災無線
- 各家に配布するフリーペーパー。
- 今の世の中に、参議院制度が必要なのか？選挙法の見直しが必要と思う。実際うすれて誰が議員かよくわからない。
- 街頭広報
- 投票した時としない時の具体的な未来を示したほうがよい。
- 回覧板で回す。
- 新聞広告・記事
- できる限り多くの媒体で。
- 知り合いの声かけ。

問7 参考として伺います。過去に実施していた岩手県選挙管理委員会等による拡声器を搭載した広報車での投票の呼びかけや県内の大型商業施設等における街頭啓発活動（対面でチラシやポケットティッシュ等を配布し、投票を呼びかける）について、あなたのお考えをお選びください（令和3年衆院選、令和4年参院選では新型コロナウイルス感染症等の影響により実施を見送りました）。

(1) 広報車による投票の呼びかけについて

- ①可能な限り実施したほうがよい
- ②実施しなくてよい
- ③その他（ ）

①	②	③
90	62	16



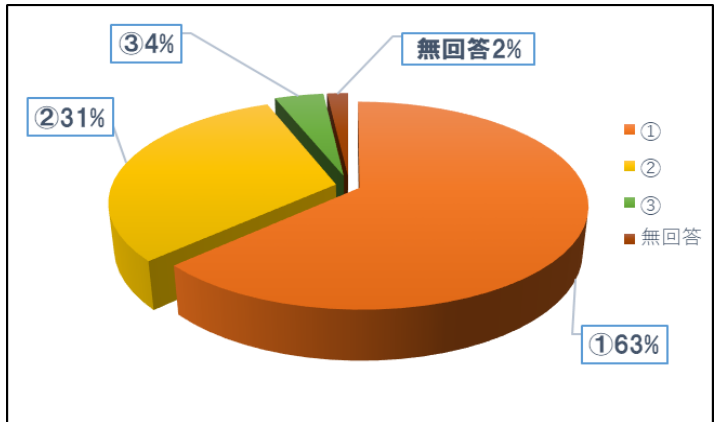
<③その他の回答内容>

- 見かけたことがないのでわからない。
- どちらとも言えない。
- 大きい選挙は党の車、そこに選挙車、通り過ぎるだけ。必要ないと思います。身近に感じない。
- 実施してよいが朝から晩までは嫌だ。
- 街頭啓発活動（対面でチラシやポケットティッシュ等を配布し）投票を呼びかける。
- 基本的に立候補者にお会いする機会がないので、臨機応変に会った方が良いと思う。小さい頃からなんとなくでも知っておいた方がよい。
- 住宅の広場に入れ替わり立ち替わり広報車が来てとてもうるさく迷惑だと感じてしまった。やる必要ないと思う。
- 騒音、うるさいだけ。
- 呼びかけをした場合と何もしない場合の投票率に有意差があればやった方がよい。
- 私の住んでいる地区に、車は回ってきたが、音が悪くてほとんど聞こえてなかった。一回だけだったら、なくてもいい。
- 広報車の音は聞きとりにくいから。
- その活動が候補者を選ぶときにどれほど役に立っているかがわからない。少なくとも自分は聞いていないし参考にしたことはない。
- 広報車よりラジオ・テレビ・ユーチューブ等の動画配信の方がこれからの時代に合っていくのではないかと。

(2) 県内の大型商業施設等における投票の呼びかけ

- ①可能な限り実施したほうがよい
- ②実施しなくてよい
- ③その他 ( )

①	②	③	無回答
106	52	7	3



<③その他の回答内容>

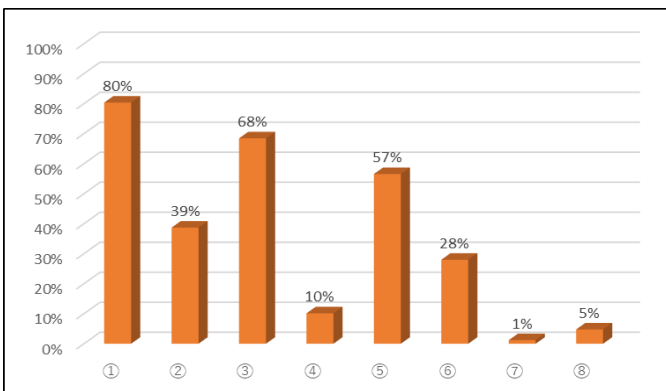
- 見かけたことがないのでわからない。
- 騒音、うるさいだけ。
- 施設内に期日前投票所があるなら積極的にした方がよい。
- 呼びかけをした場合と何もしない場合の投票率に有意差があればやった方がよい。
- 実施していいと思うが、病院や学校の近くではあまりやらないようにするなどの配慮は必要だと思います。
- ポケットティッシュの配布は効果があると思う。
- その活動が候補者を選ぶときにどれほど役に立っているかがわからない。少なくとも自分は聞いていないし参考にしたことはない。
- 人が多勢集まる所ではある程度効果が期待できるのではないか。

問8 参考として伺います。あなたは普段どのような方法（媒体）で情報を入手していますか。

以下の中から当てはまるものを全てお選びください。

- ①テレビ ②ラジオ ③新聞 ④雑誌 ⑤スマートフォン、タブレット等でのインターネット
- ⑥パソコンでのインターネット ⑦特にない
- ⑧その他 ( )

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
135	65	115	17	95	47	2	8



※回答対象者 168 人が各項目を選択した割合

<⑧その他の回答内容>

- 公共施設や観光施設に置いてあるチラシ、市の広報、回覧板。
- 啓発に関することではありませんが、投票所に監視人が大勢必要でしょうか？投票する人が私だけの時、全員の視線が感じられ、イヤな思いをしたことがあります。
- 中・高校の授業の中で投票の大切さを教える。
- 投票所を例えば生協等の大型スーパーの角に設けた方が買い物しがてら投票しやすいと思う。選挙えんぴつやボールペンもらえたら嬉しい記念になります！
- 行きたくなるような、1票の重みを実感できるような選挙になるなら…投票所に行く。(情報として)報道で圧勝の予想とか、市町村長が誰に投票するか等報道必要ですか？
- 選挙公報
- 期日前投票会場の拡大。当町では、2年前より役場会場だけではなく大型店舗の協力をいただき分散会場投票を行っている。投票率向上の一担をになっていると思う(選管聞き取り)。
- 学校での授業

問9 投票率の向上に向けてどのような啓発の取組が必要だと思えますか。御意見・御要望を御自由にお書きください。

<回答内容>

- 報道では政治家の悪い面ばかり取り上げられている印象で、そもそもの政治への期待が薄まっていると思います。なので、特別に応援する人が居ない限り、行かない人にいかなる手段で投票を呼び掛けたとしても焼け石に水ではないかと思えます。単純に投票率を上げるのであれば、インターネット投票しかないのではないかと思います。
- 引っ越ししても住民票を変更してない大学生などが投票できてないと聞きました。投票出来るよう対策があるといいなと思いました。
- 自分が投票してもしなくても(自分の1票の投票では)、政治が変わるわけがないと思っている人が多いと思います。難しいとは思いますが、一票の積み重ねで、政治(議会の決議を受けた行政)の変化があったの具体例を周知してはどうでしょうか。または、極端な話、「棄権した場合、他の有権者の投票に白紙委任したことになりますよ。結果、当選した議員の任期中は、その議員の議決・賛否又はその政権の政治姿勢を他人に白紙委任したことになるが、いいのですか。」ということ周知してはどうでしょうか。自分自身は、選挙投票は納税者の権利であると考えており、自分が納めた税金の使い道の選択をどの候補者に任せるかということで、政党・候補者の主義主張を検討して、国会議員の選挙は毎回投票しています。ただし、市議会議員選挙は、誰がなっても、変わらないかなと思って、地元(地域)の人に投票したり、白票を入れたりしています。
- 周辺市町村のような選挙権を在学中に得ることのできる高校生のショッピングセンターなどでの啓発活動も必要なのではないかと思えます。
- 各党および立候補者の公約(何を訴えているのか)の比較表を分かりやすく明示して欲しいです。オンラインでの投票を導入しても良い時期だと思います。
- 人が集まりやすい商業施設にて、呼びかけなくともチラシや冊子を置くことが一番と思います。若者などは、

意外と呼びかける人等がいない方が、そういった冊子を手に取りやすいと思います。

●自分が投票したいと思った党や人がいれば、積極的に投票に行くので投票云々ではなく、個人にスポットライトを当てた情報が知れる場があればいいと思う。

●投票しないことによるデメリットや損失について、数値等を用いた具体的な説明が必要だと思う。

●今でさえ色々な取り組みをしているので、さらに投票率の向上に向けての活動はよくわかりません。

●まずは若い人に投票することに慣れてもらうために「選挙に行くとちょっといいことがある」ような何かを考えてほしいと思います。あとは私は2歳児を自宅保育しながら妊娠中の生活を送っていて、たとえばスーパーにチラシを貼るなど子どもがいれば見ている余裕はなく、ちょっとした時間でLINE、Twitter、Instagramをチェックするくらいしかできないので選挙や投票についての情報はSNSを使ってほしいです。結局、若い人が投票しても意味ない(高齢者が得するようにしかならないなど)と思って行かない人もいると思うのでその辺りをどう工夫していろいろな世代に投票してもらえるか考えてほしいと思っています。

●テレビやラジオ、防災無線など分け隔てなく呼びかけられる媒体を使うのが良いと思う。

●選挙での投票は義務ではなく権利ではあるが、我々の実生活に深く結びついているという事を身近な事例(改革、改善例など)を列挙する事で関心を強めてもらう。

●投票に誰が行った行かなかったというのは把握できていると思うので、行かなかった人の住民税の税率をあげる。または、行った人の住民税の税率を下げるくらい思い切ったことをすればいいと思います。

●投票済み証明書を持っていくと割引になるサービスをいくつかの飲食店でやっていますが、そのようなことをもっと色んな施設やサービスでやることで、選挙=楽しいものになっていくのかなと思います。我が家は選挙に行ったら寿司・焼肉など美味しいものを食べることにしているので、そういった家族の行事の一つみたいにしていくような発信はいかがでしょうか。私の周りではテレビ、新聞をほとんど見ないので、ネット広告を増やすことは重要になると思います。ただ「選挙に行こう」と伝えるだけでなく、「行くことが無駄にならない、1票に意味がある、こんなすごい人が立候補して頑張ってる」と伝わらないと難しいと思いますが。

●新聞に意見広告を掲載する。

●SNSを有効的に活用

●どのような取り組みをしたところで、投票する側にメリットが有ると感じないと投票率は上がらないと思います。

●スウェーデンでは若者の投票率が高いとのこと。理由として、小学校の授業で選挙の必要性をきちんと教え、学校の様々な場面で投票をするという実体験を数多くさせるそうです。そのことによって自分の意見が反映されるということを体験していくのだそうです。今の日本では政治に関心が薄い人も多く、選挙権を持っている方々の投票率を今以上に上げるのはなかなか厳しいものがあると思います…。海外の良いところを手本にし、本気で数年先を見据えて取り組んでいくべきかと思います。あとは、セキュリティの問題が課題かとは思いますが、インターネット投票にすれば若者の投票率は格段に上がるでしょうし、投票所まで行くのが大変な人や面倒と思っている人にも便利で投票率アップにつながると思います。こちらも本気で取り組んでほしいと願っています。

●投票に行かない人は、投票に関する情報を自分から取りにいかないのだと思う。投票は、いつ、どこで、どのような方法でできるのかを具体的にわかりやすく伝える事を考えてはどうか。例えば、ここで何月何日に投

票ができると、事前に掲示するなど。投票できる車両をもっとつくる。市町村の選挙でも使用できるようにして、高校や福祉施設、老人福祉センター、老人ホーム、大きな病院や診療所、商業施設、産直などこちらから取りに行く姿勢が必要だと思う。イメージは、ガンの健診車だろうか。もちろん事前にいつどこに投票車がくるかは宣伝する。期日前投票が多くなるが、同じ場所に複数回行くことも考えてはどうか。選挙公報は読むとおもしろいし、候補者や党が何をしたいのかがわかる。なので広く高校や大学、公共施設、病院や商業施設などに掲示してほしい。新聞社が掲示板に貼っているように。それを見てから投票できるようにするのもどうか。投票場所に行けない、わからない、知らないとか誰に、どの党に入れたらいいのか、何を主張しているのかわからない、知らない、誰がでていいのか、どんな党があるのかをもともと知らないなどの理由で行かない人が多いようなので。

●単に投票してくださいの呼びかけで意味があるでしょうか？各政党の公約等が書かれたチラシなどよく見ますが、「選挙は〇〇党と書いてください!」と書かれています。一部の党だけとしましたが、ほぼどの党も似たようなことを書いていました。有権者に命令するようなことを書き、何様なんでしょうか？程度の低さが残念です。選挙カーでも同じようなことを言い散らして回っています。とりあえず自分達の政党を書いてくださいと言わんばかりの活動に終始しており、投票率が低くて当然です。各政党の宣伝の在り方はともかくとして、少なくとも中立の立場である選挙管理委員会は、なぜ投票が必要なのかを浸透させるべきです。仮にただ投票すればいいだけの考えの人が増えて投票率が上がったとしても、それはあるべき姿でしょうか？大してなにも考えずにただ投票するだけの有権者ばかりになった時、どんな街になるでしょうか？北欧など投票率が高い国は、身近で政治に関わる機会が多いから関心が高く、自分事として考えていて投票は必要なことだと理解しているから、それが投票率の高さに表れているんです。なぜ投票が必要なのか、根本的な理由と必要性について浸透させることがまず必要ではないでしょうか。学校で教育の一環として取り入れることも必要だと思います。有権者にとって、投票することは必要なことだと理解されるようになれば自ずと投票率は高くなります。

●小・中学生の時から、政治参加の大事さを体験できる学習

●県選管等の啓発の取組みは十二分のように感じています。投票率の向上ということを考えると、啓発の取組みも大事ですが、むしろ現職や新人として立候補される方々が地域を歩き、声を聴き、課題をしっかりと把握する、そういう姿が普段から見えることの方がより大事ではないかと思います。

●あらゆる手段で啓発。あとは、ネット投票でしょうか。

●若者をターゲットにするなら、YouTube や TikTok を使ったり、小学校、中学校、高校で投票の必要性を授業に取り入れたりして行った方がいいと思う。悲しいことですが、40代、30代は政治に関心が薄い人が多いように感じます。

●投票の啓発よりも、政治への興味づけの方に力を入れる必要があると感じています。

●若者が集まる場（高校や大学など）での啓発活動。

●どのような理由があれ、興味のある人は演説に出向くし、興味のない人は煩わしく感じていると思う。広報車は名前の宣伝にはなれど、果たして応援したくなるかと言われれば、そうとは思わないし、意味があるようには思えない。夜勤や小さい子のいる家庭は、睡眠のリズムを崩されとても迷惑に感じていると思う。（実際我が家も夜勤や子どもが小さい時、あの声で起こされ困っていた。）今回の事件があり、演説の形も考えなければならぬのかと思った。

- テレビやラジオで人気のある情報番組の中で広報する。スーパーやドラッグストア、コンビニ等で買い物の際に、レジで広告入りのポケットティッシュを配布する。大学や高校に告知ポスターを貼る。
- 表などで、出馬者の意表演説の内容をカテゴライズするなど分かりやすくすると気軽さが増すと思う。
- 幼児期からの家庭教育
- 投票率や啓発の前にまず、ぜひ投票したいと思える人が立候補していること。投票に行っても、特に応援したい人がいないという声をまわりで聞きました。投票に行く気持ちはあっても実行するのが困難な場合の対策を考えてみて頂きたいです。例えば、出産間近、産後で新生児がいる、ケガで入院中、高齢で膝が痛くて投票所までの移動が困難、高齢者向け施設に入居中、など。
- 選挙に関するお願いなのですが、選挙カーをやめてもらえませんか。やっと昼寝させたばかりの子どもが起きます。選挙カーで大音量で走る候補者は、子育て中の人を応援する気持ちは無いんだなと思って聞いています。選挙カーで名前が聞こえた人には絶対投票したくないと思うほど、ただただ迷惑に感じております。昔は選挙カーにも一定の役割があったのだとは思いますが、今の時代に合わなくなってきているのではないのでしょうか。
- 商業施設での期日前投票等の実施
- わが町では、高齢化がすすみ、投票所に出かけることが困難な方もいます。投票所か移動(移動投票所カー等)して来てくれたら良いと思います。
- 選挙に行くと言葉を頂ける選挙投票証明書？がありました。もっとそれを使つての割引できる店舗の数を増やすとかあればいいです。ネットで検索してみるとあまり使える店舗が無いと感じました。そのような内容もニュースやラジオでの啓発があればもっと多くの人が投票に行くきっかけにつながると思います。
- スマートフォン等の普及が著しく若者から高齢者の利用者が多いと思う。マイナンバーカードでの投票を実現。マイナンバーカード登録にも寄与する(利用者にはポイントを)。
- 自分の一票じゃ何も変わらないと思ってる人が多いと思うので、一票じゃ変わらないかもしれないけど、その一票を無駄にしたら本当に何も変わらないし、なぜ行く意味があるのかってのを分かりやすく届く言葉で伝えるのがいいと思う。
- 若い人の著名人が投票を呼び掛けるなどのCMはとてもいいと思う。憧れている人が投票をしてきたことなどを伝えると自分もと思えるので。娘が中学生ですが、あまりテレビを見ないのでYouTube等のメディアでも啓発活動して頂けると、興味を示すと思うし、家庭でも話の話題に出来やすい。年配の方々のテーブルを囲んでの議論等では若い人は興味を示さないと思う。
- 投票することによるノベルティの配布
- 新聞とかテレビで充分
- 投票をしに行くことによって自分に得があると思えるような活動をしなければ、興味のない人の投票率を上げるのはむずかしいと思う。
- テレビ SNS など
- 若者世代への関心を持たせる活動、高齢者等の郵送投票(訪問投票とか)などで改善
- 学校・職場(期日前投票一日のみ) その他各会場(当日・期日前投票)
- 身近な選挙でも興味を持っていない人が多い。その中で大きい選挙はもっと興味がない。これを目ざめさせ

るには、何があるか、考えもつかない。まして参議院選となるとそれってなに！！がこたえで帰って来る。私は国の選挙法をかえられないのか？と思う。啓発事業はむずかしいと思う。今回のアンケート一番むずかしいと思った。

●「知らない」「わからない」「関係ない」という言葉が若い人から発せられるのは、全てが相手から与えられたルールの上に乗って育ってきたという特徴がある。どういう社会が望ましいか考えようという点をもっと押していったら良いと思う。

●啓発に関する事ではありませんが、投票所に監視人が大勢必要でしょうか。投票する人が一人だけの時、全員の視線を感じ、イヤな思いをしました。

●投票率の向上に向けては、啓発よりも制度（システム）（ネット投票可能）改正が有効と思う。

●候補者の施策や思いがわかりやすく国民に伝えること。

●中学校からの選挙、投票、政党などの政治教育する。また、ディベート教育も行い、世の中のしくみも学ぶ教育をする。合わせて、議員（国会、県、市町村）や自治体の長を講師として、選挙、投票、政党、政治について話してもらうことによって、選挙が身近になると思います。

●10代、20代に向けての興味をひくような啓発活動。

●期日前投票の前に選挙公報が届くようにしてほしい。（じっくり読む時間がほしい）

●東日本大震災用の自己啓発の取組あるいは積極的参加。

●高校1年生から、衆議院・参議院の選挙投票行動を促す教育が必要ではないでしょうか。一つの案ですが、「ポイント制度」の導入を考えてはどうですか。（マイナンバーカードを参考にする。）

●白票であっても投票に行くことの意義を訴える必要がある。投票用紙の書き方に戸惑うことがあるので書き方の説明が必要。

●候補者の魅力が一番だと思う

●若年層の政治離れが影響していると思う。小・中学校での選挙に関して教える機会があっても良いと思います。

●問7の(1)(2)新情報の情報発信

●若者向けには、スマホ関連がいいのかなと思います。

●新聞購読世帯に啓発のチラシを配布してほしい。このチラシに選挙の実施概要や啓発の内容等の情報を入れる。高齢者には紙媒体が効果的である。

●期待出来る政治家、政党がいなければ難しいのでは。

●国の将来を決める重要な手段に、1人1人が関わることができるという意識をもっと高めるような訴えが必要だと思う。マイナンバーカードを使って、オンラインで（または入場券の代わりになるようにする）投票できるようにすればもっと楽になるし、投票率も上がる。

●投票方法の選択を増やす（ネット投票など気軽にできる方法）・選挙（政治）を身近に感じてもらえるように、参加したいと思えるような日ごろの取組（学校、団体と連携した何か）

●範囲の広い選挙であるので、直接立候補者の声を聞けない分、関心も薄れてしまうのが本音です。期間だけが長い選挙戦、家庭内でも車イス等、必要な方など無理して投票に行かなくても良いと思ってしまいます。

●難しい質問です。18歳以上になり高校で模擬投票等取り組んでいる様ですが大学や勤務先等で、指導して政



治に関心を持つ様に指導してみたらどうかな??

- 今の若い人たちはテレビを観ないのでYouTube 広告等が（スマートテレビで観れる）良いと思います。
- 携帯を活用した啓発活動。
- 政治とカネ問題がなくなる限り、選挙へのイメージも良くはならない気がします。あとは個人の意識の問題なのではと思います。
- 誰に投票しても、どこに投票しても良く変わらないという悪いイメージがあると投票しないと思うし、知名度の高い人に良くなっている点や呼びかけをしてもらおう等工夫が必要だと思います。
- まず、若い世代に各政党がどのような物なのか知ってもらう事が必要だと思う。知らなければ投票できないのではないかと思うのです。
- 選挙の公約に対して具体的な結果を例として掲載するのはどうでしょう。
- 若者に向けた啓発（ネット等）
- 投票所で投票した人のみ選挙の意味等をプリントしたティッシュボックス（宣伝用）1 コを希望者に無料配布、投票率向上をはかる。
- 啓発の取組みより…投票したい人や党がないのが問題。争点もはっきりしなかったし…。
- 若い方の選挙への関わりを広げる。（私は立会人を何回かさせて頂きましたが、例えば高校生を1日立会人は無理なので3～4時間ごとに何人か入れ替えて立会してもらい、高校生&大学生に投票所レイアウトをお願いするなど）学生を上手く使えば選挙に関心が高まるのではないかと思います。
- 若者に向けての啓発が軽い、安易、本質を分かってもらうものになっているのか疑問。
- 投票した時としない時の未来の比較、1票差で当選が決まった例を出す。新人以外は以前の公約と結果も示すようにする。
- 若い世代が投票に行きたくするような、啓発が必要だと思います。
- 大型商業施設等での期日前投票を拡大推進して欲しい。
- 小・中・高校生や一般の方々にポスターや標語等を募集して関心を高める。
- 大学、高校での候補者の短い演説等。
- 各政党や各候補者やどのような政策や考えなどを持っているか分かりやすく知れるようになったらいいと思います。センキョ割がもう少し広がればいいと思いました。
- 例えば、人がいない所でも投票できたら良いと思う。コロナワクチンも予約や紙の用紙がなくても良いように、行ってすぐに投票でき、なおかつ知っている人がいなかったら、すごく安心だし、気軽に行ける。
- 本当に、国民の為に、生活等、議員に考えてほしいので啓発は、これ以上やる必要がないと思う。
- 大型商業施設だけでなく、小さなスーパーなどでもポスターなどを貼ると良いと思う。
- そもそも論になるかもしれないが、投票したい議員がいなければ投票しない自由もあると思う。政治に関心がなくて投票しない層については、もっと身近に感じてもらえるように、県民の意見または要望がこのように実現されたとわかるポスターなりを作って周知することも手だと思う。
- 投票所のわかりやすさ。期日全投票日のわかりやすさ。案内する職員の方の柔和な対応。大型商業施設もよいが、身近な近所のスーパーで目に留まりやすいところに掲示。日頃、バタバタと仕事や家事や付き合いに追われていると、脳裏に焼きつかない部分が出てくる。目の前の自分の事が優先になりがちなので、投票も大事と

分かりつつ慌てて期日や候補者を確認するので余裕が無い。投票券ハガキの字が見づらいので、ゴシックで見やすくして欲しい(視力1.5あるのだが、パッと見、見づらい。)。今回大型商業施設の特設会場で期日前投票を行ったが、独特の投票所の重苦しい雰囲気がなく、気軽に行きやすいのでとても良かった。

●若い世代の投票率を高くする為に、投票がいかに大事かを分かりやすく説明する動画などを作成してほしい。岩手県出身の俳優やタレントを起用して訴求力あるプロモーションが良いと思います。

●投票率が低いことのデメリットをもっと広める。もっと政治や選挙を身近なもの、自分事としてとらえられる機会が必要。どうせ投票しても変わらない、という意識が根深いことが問題。

●1.投票所(場所)の見直し及び追加。現在までの投票所は公民館、交流文化会館、体育館等々一般的には普段利用頻度の少ない施設に地域割りで、わざわざ出向き投票(期日前投票は除く)しているのが現状です。これに地域割り限定せず(自治体単位)共通投票所を開設する。投票場所は若年層も高齢者も出入りする(利用する)駅、バスセンター、ショッピングセンター等を利用する。わざわざ足を運ばないで、買い物、用事のついでに投票を!と気軽に出来ることでしょう。その他にも移動車により移動投票所の開設も一案です。2.学校教育(授業)に政治学(選挙等)の導入。時々議員による地域諸課題、問題点の聞き取り。学生に興味を持たせる為、身近な問題点の話し合い。\*導入は学校教育上問題ありかな。3.投票を義務化する。以上

●投票したあと、当選された議員の軌跡を追い、日常的に確認できるものがあれば、関心を寄せるのでは?

●投票者には電子マネーのポイント付与、又はドリンクの提供を行うと良いのではないのでしょうか。

●投票する事で特典が受けられるなど、官民連携しての取り組みが必要だと思う。

●40代以上の年齢層には、「投票に行くのが当たり前」が浸透しているかと思いますが、若い年齢層の方には、期日前投票という仕組みがあること、大型商業施設でも投票可能であることの周知がもっと必要かと思います。もしかしたら不謹慎かもしれませんが、献血のように、「投票に来たら、牛乳か野菜ジュースか水または災害備蓄用の乾パンをサービス」しても良いのでは?と思います。健康にも災害対策にも良いので。まずは、楽しく「投票に行く」を目標にしても良いのでは?

●親世代が子供が小さいうちから選挙(投票所)で投票する姿を見せること

●インスタ・YouTubeを閲覧したり、広告ポスターを見なければわからない選挙に関するクイズを聞いてポイントをもらえとか、投票済みチケットの様な物を配布して地域でサービスを受けられる様にする。学生(18才~)は学校も活動・学習があり、選挙場所に行けない事も考慮し、校内で投票できる様にしてみてもどうか。

●コロナ禍における規制のある中での活動には限りがあったと思いますが、各世代に向けた方法を考えているとは思いますが。(思い切った活動するには、経費もともなうと思います。)

●単純に投票率を上げたいのであれば、投票後、商品券を渡す、などをすれば行く人が増えると思います。ただ、支持したい政党がないのも問題ですが…。あとは選挙に対しての考え方をいいイメージにしたり、政治に参加しようと呼びかけるとか。

●中学や高校、大学等で選挙について学ぶ場や教える場を増やしていくと良いと思いました。

●選挙権をもつ前までの教育が要だと思う。選挙権をもつ意義をきちんと伝え、それが理解されていれば過度な啓蒙活動は不要であり、意識的に投票するのではないか。

●新聞で取り上げる。

●政治に責任がある、有権者の意志との乖離がありすぎ、有権者の関心がなくなっている。

- 政治が身近なものであるという意識を根づかせる。
- 今回心配だったことは、新しく選挙権を得た方々の投票でした。もっと身近で啓蒙活動があればいいなと思う。
- 若者の投票率を高めるためには、YouTube 等での発信が効果的だと思います。若者に人気のあるユーチューバーなど各分野のインフルエンサーによる啓発活動に期待します。
- スマホで投票など自宅から気軽に投票ができれば、興味も出てくると思います。
- スマホ、ネットで投票できればいい。
- 子供達が学校教育で、市町村県政の議会を多く見学出来るようにしたら、選挙について、投票について家族で話しあう時間を。
- 高校教育の中でなぜ投票率が上がらないか、その弊害は何か、投票と政策とのかかわり等を考える機会を早急に設けるべき。次に障がい者に配慮した投票のあり方を再検討すべき。投票所で緊張して何もできなくなったりという事がないよう懇意にしている介助者が付き添う等の改善策を考えてほしい。政治のあり方について考える学生・若者の社会人の会員を募集してその人達を中心になって投票率を上げる会を立ち上げていったらどうか。
- 期日前投票の宣伝をもっとする。
- 郵送による投票。
- 若者へのアピールが弱いと思う。政治への積極的な参加を工夫して！！
- 学校での教育。
- 子どもに対して政治の話をしていないのは問題で、小中高校生に対する啓発が何より大切だと思います。自分の考えに近い候補に投票するだけでなく、たとえ支持していなくても評価できない政策から遠い立場の候補に投票する、政党間のバランスを考えて投票するなど、自分の一票をどのように活かすかを考えられるように啓発すべきだと思います。小中学校の生徒会選挙で、「清き一票をお願いします」などというような選挙体験をさせるなんてナンセンスです。
- 意識の共有が大事だと思います。皆が声を掛け合える社会参加が当たり前の風潮が必要。最近選挙投票権の年齢が下げられたが若い世代に大変高評価だと感じている。大型ショッピングモールの投票所もありがたいです。新しい取り組みを持続的に行なっていくことが興味、関心と呼び投票率アップにつながると思います。